



台湾侵攻に対する外交施策

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

台湾侵攻は、来るべき核戦争と共に現実なのである。極東アジアにおける外交における取り組みは、中国との平和協力と台湾との連携、韓半島における和平と統一への取り組みなど、歴史問題の解決と、極東アジアにおける平和と協力関係の提案を実現できる。

これらは国際社会における自己プレゼンスを有する日本が、彼らを助けることができるのである。

また極東アジアにおける統一体など、戦争の舞台として、地域が存在することへ、最後の外交交渉を提案できるものである。

在日米軍とアメリカが台湾の保護を明示したことへ、戦争という選択でなく、平和の共有という提案が求められることは正しいのである。

しかし軍産複合体は、戦争を要求する。これがアメリカの真意であり、外交は、対米従属を離れる覚悟を要求される。

これは外交の基軸は、独立と自立における新しい国際社会への参加など、日本の外交施策の転換は、ウクライナ侵攻と同じ衝撃を世界へ与えるのである。これは世界のパワーバランスが完全に転換することを意味する。

これら現実変化へ信念と理念を抱き新しい世界を提案することは、世界における新しいグループ形成を求めることができるのである。

これは日本がキープレーヤーとして世界の舞台へ再度参加できることを意味する。これらは英断と決意における政治腐敗との決別など、国策の制定を求められるものである。